

エディトリアル

川崎市立多摩病院救急災害医療センター 副センター長 田中 拓

気管支喘息, アレルギー性鼻炎, アトピー性皮膚炎, 食物アレルギーといったアレルギー疾患は今や国民病とも言われ, 全国的に増加傾向であり, 国民のおよそ2人に1人は何らかのアレルギー疾患を有していると言われている。

成人はもとより小児の患者も多く, その対応は地域医療に従事する医師としてぜひ身につけておきたい。本特集では地域の医師として知っておきたい一般的な対応と, 専門科への紹介を検討する場合について, 代表的な疾患をもとに昨今の知見をまとめた。

まず総論として, 松山泰先生には地域プライマリ・ケア医の視点から知っておきたいアレルギーについてお示しいただいた。アレルギーの分子病態を一定理解し, 治療に当たることが重要である。特に, 時として致命的となるため迅速かつ適切な対応を求められるアナフィラキシーと血管性浮腫, 重症薬疹について詳述されている。またアレルギー疾患を疑ったときに実施される検査についても具体的な適応と方法, 注意点を示していただいた。

坂東政司先生には気管支喘息について詳述いただいた。喘息を適切に臨床診断し, 症状のコントロールと将来のリスク回避を達成するための治療について示していただいた。プライマリ・ケア医が使いこなすことは困難かもしれないが, 難治性喘息に対する生物学的製剤の位置付けも整理されている。また地域の医師として多職種が連携して包括的に対応することの重要性が示されている。

菊池恒先生にはアレルギー性鼻炎の薬物治療, 舌下免疫療法についてお示しいただいた。鼻粘膜所見を取れなくとも患者の訴えから重症度を確定し, 適切な薬剤を使用することの大切さが述べられている。また, 舌下免疫療法はアレルギー専門医でなくとも講習, e-Learningを受けることにより処方可能であり, 診療所でも検討すべき治療と考えられる。

梅本尚可先生にはアトピー性皮膚炎についてお示しいただいた。アトピー性皮膚炎の診断, 評価のポイント, 治療について詳述されている。特にステロイド外用薬の使用法と改善しない場合の注意点, スキンケアや生活習慣を含めた指導と管理は地域の医療者の果たす役割が大きいと考えられる。

熊谷秀規先生には食物のアレルギーについて詳述いただいた。食物アレルギーの診断におけるプロバビリティカーブの使用や適切な食物経口負荷試験の位置付けは, 専門科医との連携に重要である。またアナフィラキシーについても食物だけでなく, 薬品との関連について詳しく示されており, 注意が必要である。

アレルギー疾患は患者の日常生活に大きく影響し, また時として命に関わることもあるcommon diseaseである。多くが生活習慣や予防とも密接に関連しており, 地域の医療者の果たす役割は大きい。

本特集が日々のアレルギー疾患診療に寄与することを願っている。